

授業科目名： **金融・資本市場概論**

科目区分： 金融・財務（応用）

必修・選択の別： 選択

配当年次： 1・2 年次

単位数： 2 単位（学習期間 1 学期）

担当教員： 幸田 博人

オフィスアワー（授業相談の受付）：

e ラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。

（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

面会・電話を希望する場合は、事前にメールで希望日時を連絡してください。

## 1. 授業の概要

本講義では、金融・資本市場の機能や役割について、ビジネスパーソンが押さえておくべき内容を取り上げます。その上で、金融・資本市場の構造について、どこに着目するべきか、何を視点に持つかについて、個々人の能力として獲得できることを到達目標とします。

金融・資本市場は、日々の様々な企業活動や投資家の状況、更には、世界の金融マーケットの動向等に左右され、大きな変動にさらされています。こうした目の前の変化にのみに捉われずに、その金融・資本市場の構造的変化は何か、その仕組みに課題はどう捉えておけばいいか、等について、理解することを目的にします。

金融・資本市場における基本的仕組み、株式・債券等のプロダクトについての理解、資本市場を巡る新しい動き、M & A 等経営戦略に係る事項、企業の財務戦略、資本市場の担い手（当局、取引所、企業、投資家、証券会社・投資銀行等）の役割と課題、イノベーション(含む FinTech) の重要性等について、きちんと基礎的なことに加えて、最新の状況等も理解し、その上で、今後のマーケットの不透明性の下、金融・資本市場の構造について、どこに着目するべきか、何を視点に持つかについて、個々人の能力として獲得できることを到達目標とします。

## 2. 学習目標

本講義の理解が十分出来れば、日々の金融・資本市場の様々な動きをきちんとフォローアップできると同時に、その構造的課題等についても示唆を大きく得ることになる。

本講義の学習目標は、以下の 4 点について理解し、今後のマーケットの不透明性の下、金融・資本市場の構造について、どこに着目するべきか、何を視点に持つかについて、個々人の能力として獲得できることを到達目標とします。

1. 金融・資本市場の基本的な機能、取り巻く環境の変化
2. 資本市場を通じた資金調達の方法
3. 資本市場の担い手（当局、取引所、企業、投資家、証券会社・投資銀行等）の役割と課題
4. イノベーションを巡る状況（含む FinTech）

## 3. 授業計画

第 1 章 資本市場入門

第 2 章 株式市場概論

第 3 章 債券市場概論

- 第 4 章 企業の資金調達
- 第 5 章 M&A 概論 (1)
- 第 6 章 M&A 概論 (2)
- 第 7 章 金融制度と資本市場の枠組み
- 第 8 章 投資家と資本市場
- 第 9 章 コーポレートガバナンスについて
- 第 10 章 資本市場におけるビジネスエシックス
- 第 11 章 フィデューシャリー・デューティー
- 第 12 章 金融リテラシーと金融経済教育
- 第 13 章 FinTech と金融機関
- 第 14 章 成長戦略とイノベーション
- 第 15 章 ベンチャーエコシステム

#### 4. 受講上の留意点

大学の既定のスケジュール通りに遅延なく受講してください。

#### 5. 成績評価基準

出席率 (30%)、各章小テスト (20%)、期末レポート (50%)

#### 6. 必読書籍

なし

#### 7. 参考書籍

- 幸田博人編著『日本企業変革のためのコーポレートファイナンス講義』(金融財政事情研究会)
- 幸田博人・川北英隆編著「金融リテラシー入門」(基礎編・応用編) (金融財政事情研究会)
- 池尾和人・幸田博人 『日本経済再生 25 年の計～金融・資本市場の新見取り図～』(日本経済新聞出版社)  
聞出版社)
- 藤田勉・幸田博人『オーナー経営はなぜ強いのか?』(中央経済社)
- 日本証券経済研究所編 『図説 日本の証券市場』(日本証券経済研究所)
- 日本証券アナリスト協会編 『証券分析・投資運用用語辞典』(ときわ総合サービス)
- 神作 裕之, 小野 傑, 今泉 宣親(編)『資産運用の高度化に向けて』(金融財政事情研究会)
- 神作 裕之,小野 傑,湯山 智教 (編)『金融と IT の政策学 東京大学で学ぶ FinTech・社会・未来』(金融財政事情研究会)
- 神作 裕之,小野 傑,湯山 智教 (編)『金融資本市場と公共政策』(金融財政事情研究会)

#### 8. その他

特にありません。